

2021.12. 律法主義には戻ってはならない
新約聖書：ヘブル人への手紙 12 章 18 章～24 章

JD ファラグ牧師

おはようございます。日曜日の朝の第二礼拝によるこそ。日曜日の朝は二つの礼拝があります。第一礼拝は、毎週行っている「聖書預言・アップデート」です。そしてこの第二礼拝は説教で、御言葉の一節ごとの学びです。現在は、ヘブル人への手紙に入っています。この時間、オンラインでご参加の方も、第 12 章をお開きください。ここにいらっしゃる方で可能な方は、ご起立ください。私が読みますのでついてきてください。無理な方は、お座りのままで結構です。先週は 17 節で終わりました。今日は 18 節からです。主の御旨であれば、24 節まで進みます。ヘブル人への手紙の著者は、聖霊によって書いています。18 節から。

ヘブル 12

18 あなたがたが近づいているのは、手でさわられるもの、燃える火、黒雲、暗闇、嵐、

19 ラッパの響き、ことばのとどろきではありません。そのことばのとどろきを聞いた者たちは、それ以上一言も自分たちに語らないでくださいと懇願しました。

20 彼らは、「たとえ獣でも、山に触れるものは石で打ち殺されなければならない」という命令に耐えることができませんでした。

21 また、その光景があまりに恐ろしかったので、モーセは「私は怖くて震える」と言いました。

22 しかし、あなたがたが近づいているのは、シオンの山、生ける神の都である天上のエルサレム、無数の御使いたちの喜びの集い、

23 天に登録されている長子たちの教会、すべての人のさばき主である神、完全な者とされた義人たちの霊、

24 さらに、新しい契約の仲介者イエス、それに、アベルの血よりもすぐれたことを語る、注ぎかけられたイエスの血です。

これは説明は不要ですね、あとはお祈りで締めくくりましょう。みんな理解していると思います。祈りましょう。よろしければ、一緒をお願いします。

天の父よ、私たちの前に、今朝与えられたみことばには、聖霊が私たちの教師であり、導き手となってくださることが必要です。なぜなら、あなたが見る目を与えてくださり、教えてくださり、伝えたいことを示してくださらないければ、私たちはそれを見逃すことになるからです。今日、あなたのみことばと一緒に過ごす時間は、時間の無駄になるでしょう。今日、ここにいる誰もがそんなことを望んでいません。私たちはまた、主だけがおできになる方法で、心を落ち着かせるために、聖霊を必要としています。私たちがあなたに集中して注意を払うことができるようにしてください。私たちの心が迷い、気が散って、他のことを考え始めないようにするためです。そうすると、今日あなたが私たちのために用意してくださったものを見逃してしまいます。主よ、私たちが今日ここにいるのは、私たちは必要としている者だからです。私たちはあなたに飢え、渴いています。その飢えと渴きを満たすことができるのはあなただけであることを知っています。主よ、私たちは養われる必要があります、あなたのみことばは、いのちのパンとして私たちが養うものです。人はパンだけで生きるのではなく、神であるあなたの口から出るすべての御言葉によって生きるからです。そして今日、私たちの前にあるみことばもそのようなものです。主よ、私たちの人生に聖霊の小さな、静かな、洗練された声で語りかけてください。主よ、お語りください、あなたの

しもべたちは聞いています。イエスの御名によって祈ります。アーメン、アーメン。

ご着席ください、ありがとうございました。さて、今日は律法主義についてお話ししたいと思います。律法主義の危険性について、特に、律法主義に逆戻りしようとする誘惑と言ってもいいかもしれませんが、その理由についてお話しします。律法主義の危険性について、特に、律法主義に逆戻りしようとする誘惑と言ってもいいかもしれませんが、その理由についてお話しします。理由は次の通りです。ヘブル人への手紙の著者は、今日の聖書箇所の中で、シナイ山（律法）とシオン山（恵み）の間に、実に控えめな表現ですが、このような、はっきりとした対比を描いています。なぜでしょう？ 先週見たように、彼は、このヘブル人クリスチャンたちが直面していた問題に、真っ向から取り組むことを勧めているからです。先週見た内容から明らかなように、聖霊に導かれたヘブル人への手紙の著者が対処しなければならなかった第一の問題は、“苦い思い”の問題でした。そして今度は一転して、別の非常に深刻な問題を扱っています。それは、律法主義という深刻な問題です。非常に危険で、破壊的で、さらに付け加えると致命的なものです。私たちがこれから見るように、これは生死に関わる重大な問題です。今日共に過ごす時間で、この問題に取り掛かりたいと思います。当時の彼らにとってそうであったように、今の私たちにとっても問題なのです。惹かれるものがあるようです。律法主義に惹かれる何か、私たちの中に、生まれながらにしてあるのです。そのことについてもお話ししたいと思います。しかしその前に、これらのヘブル人クリスチャンは、友人たちからユダヤ教に戻るように誘惑され、圧力をかけられていたのです。このように、律法主義に戻っていく中で、彼は律法と恵みの間に、このような対比を描いています。

律法が下ったシナイ山と、聖霊が下ったシオン山。まず、このリストを見てみましょう。

シナイ山	シオン山
律法	恵み
モーセ(仲介者)	イエス(仲介者)
旧約(古い契約)	新約(新しい契約)
排除	包含
恐れ	愛
恐怖	赦し
地上のもの	天上のもの
罪悪感	義
動物の血	イエスの血

シナイ山は律法、十戒を表しています。一方、シオン山は恵みを表しています。シナイは、モーセを仲介者としていましたが、シオンは、モーセよりも偉大なイエスであり、モーセはその型であり、モーセが指し示すお方です。究極にして最後の仲介者、メシアとしてです。シナイ山は旧約であり、シオン山は旧約の成就と相対し、イエスの血による新約です。シナイは排除されました。私たちはちょうど読み終えたところ、仮に動物が少しでも近づき、その山に触れることができたとしても、その動物は死んでしまいます。モーセ以外の人間も同様です。シオンの場合は、排除の逆で、包含です。シナイは恐怖でした。恐れと震えです。しかし、シオンは愛です。愛と受容です。シナイは恐怖。シオンは赦し。シナイ、地上のもの、シオン、天上のもの。シナイ、罪悪感、シオン、義。自分の義ではありません。私たちは皆、罪を

犯しているということです。それはキリストにある義です。しかし、自分の真の姿を見るために律法が必要なのです。自分が罪びとであること、神に対して罪を犯していること、神の律法に違反していること。律法は、学校の教師のように、私を救い主のもとに導くという目的を果たすと言われていました。なぜなら、自分の本当のを、鏡としての神の律法の中で見るからです。神の御言葉がなすことは、そうですね？ 鏡ですよ、ヤコブに…そういえばもうすぐへブル人への手紙が終わりますね。へブル人への手紙の後に何が来るか知ってますか？ 誰か「ヤコブの手紙」って、言ってくださいよ。待ち遠しい、そんな感じです。ヤコブの手紙は、読んだ後に、「やったー！」となるような書ではありません。「ああ、主よ…」とひれ伏すようになるものです。彼は、ただ聞くだけでなく、御言葉を実行する者になれと語っています。御言葉を聞くだけの人は、神の律法という完璧な鏡の中に自分を見ても、その場を立ち去れば、自分の姿を忘れてしまうのです。（ヤコブ 1:22, 23 参照）それが神の御言葉であり、神の律法なのです。これを開けると、鏡になっていて、私が映っているんですよ。ウァ！ そうですね。毎朝、鏡を見るたびに、ウォ！ 外見は日に日に衰えていくという聖句は本当だだと思います。日に日に衰えていきます。神に感謝します。私たちの内側は御霊において日々新たにされています。でも、鏡を見てどうします？ これについて、ちょっと話させてください。この対比を理解する上で、重要な意味を持つと思います。私たちは鏡の中の自分を見てどうしますか？ 修正しますよね？ ああ、あるはずのないところに毛があって、あったはずのところに毛がない。これを剃って、ブラシして、梳いて、洗って…そのくらいにしておきます、私はあまり…

でも、見るものに対して何かをするということです。シナイ山と律法に関しても、このことが当てはまります。それは鏡の役割を果たしています。そして私たちは、神が私たちを見るように、自分の罪を見るのです。それは、私たちの罪のゆえに、イエス・キリストと、彼にある義を見つけるシオンへと、私たちが突き動かすはずで、最後に、シナイは動物の血を表していましたが、シオンは唯一無二のいけにえとして、キリストの血を表していました。ローマ人への手紙 8 章にお付き合いいただけますか。ローマ 8 章はご存知ですよね？ ローマ人への手紙 8 章を知らない人は、知る必要があります。神の御言葉の中で最も偉大な章の一つです。特に、神が私をどれほど愛されているかについて、疑っている人にとっては、とても重要な章です。特に、神が自分とは距離を置いている、あるいは無視している、怒っている人にとっては…ローマ人への手紙 8 章を、学ぶ必要があります。パウロは聖霊の力ではっきりと「神はあなたを愛している」と言っていますから。神の愛から私たちを引き離すものは何もなく、誰もいません。さて、1 節と 2 節、冒頭から出てきます。これを聞いてください。

ローマ 8

1 1 こういうわけで、今や、(肉によってではなく、御霊によってあゆむ) キリスト・イエスにある者が罪に(罪悪感に) 定められることは決してありません。

2 2 節をよく聞いてください。

2 2 なぜなら、キリスト・イエスにあるいのちの御霊の律法が、罪と死の律法からあなたを解放したからです。

コリント人への手紙第 3 章 4 節から 6 節にも書かれています。

II コリント 3

4 私たちはキリストによって、神の御前でこのような確信を抱いています。

5 何かを、自分が成したことだと考える資格は、私たち自身にはありません。私たちの資格は神から与え

られるものです。

6 神は私たちに、新しい契約に仕える者となる資格を下さいました。文字（律法）に仕える者ではなく、御霊に仕える者となる資格です。（その理由は）文字（律法）は殺し、御霊は生かすからです。

何が興味深いかと言えば、それはまさに、律法が下されたときに起こったことなのです。出エジプト記 32 章 28 節には、約三千人が死んだと書かれています。それは律法が下ったときのことで、使徒の働き 2 章 41 節に早送りします。神の御霊が降りたとき、約三千人が救われました。もう一度やってみます。律法は殺し、御霊はいのちを与えます。シナイ山で律法が下され、三千人が死にました。シオンで聖霊が降り、三千人が救われました。これ以上、はっきりしたものはありません。それなのになぜ律法主義に戻ろうとするのか。私は、そうなるようにしているわけではありません。努力する必要はありません、ごく自然にそうになってしまうのです。辛辣なこと、失礼なこと、不愉快なことを言いたいわけでもありませんが、つまり、それは公平な質問ではないでしょうか？ 私自身も含めて、尋ねてみるのが良いと思います。律法と恵み、律法と聖霊のことについて知ってどうするんだ？ つまり、死と生、恐れと愛罪悪感と赦しといった対比です。これは頭を悩ますことではないですよ？ これは解決済みの件であり問題ではないはずです。なぜこれは問題になるのですか？ よくぞ聞いてくれました。もしよろしければ、その質問にお答えしたいと思います。律法主義や、律法に回帰することが、クリスチャンである私たちにとって魅力的なのはなぜでしょうか。なぜそんなに魅力的なのでしょう？ なぜクリスチャンは、事実上、律法主義に戻るように誘惑されてしまうのでしょうか？ これが、律法が表しているものなのです。私は、三つの理由があると思います。もっとあるかもしれませんが、三つです。まず最初は、「霊的なプライド」です。

これは主要なものです。クリスチャンが、律法主義に惹かれる主な理由の一つは何かと聞かれたら、これに尽きると思います。その理由は、律法主義が霊的プライドに支えられているからです。律法主義のタンクの燃料は、霊的プライドなんです。それが燃料になっているのです。そして、それは罪の性質に訴え、人に霊的な優越感を与えます。なぜなら、今や、私は自分があなたよりも優れていると思っているからです。自分のことを必要以上に高く評価しているからです。そして、私はあなたを見下しています。なぜなら、あなたがテレビを持っているから。私はテレビを処分しました。どうか、誤解しないでください。もし神が、あなたの心に、テレビを処分することを思わせておられるのであれば、そうした方が良いでしょう。「私はテレビ 1 台は持っていませんが、12 台は持っています。」(笑) それで、私はあなたよりも霊的に劣っているのでしょうか？ 実際には、その逆のことが言えるのではないのでしょうか。コリント人に手紙で、つまづいた弱い兄弟のことを書いたパウロに聞いてみてください。なぜなら、信仰の浅い人は、そういったものにつまづきやすいからです。さて、私は先走りすぎています。このことについては、これからもっと話していきます。恵みの中で成長し、キリストの中で成熟した人が、より強いクリスチャンだったのです。しかし、自分のことでいっぱい、プライドが高い人と出会うと、ただのプライドではなく、霊的なプライドの高さを感じてしまうのは事実ではないのでしょうか。ウフ～ 同じことを別の言い方で言わせてください。ス～～ピリチュアル プライドです。この方がいいですか？ 要点はわかりますか？ プライドは、すべての罪の中心であると言われていています。ある人が的確に指摘したように、プライド (PRIDE) という言葉の真ん中には、「 I (私)」という文字があります。そして、「罪(SIN)」という言葉の真ん中にも「 I 」の文字があります。そして、天上で全能の神の御前で自らを高めたルシファー (LUCIFER) の真ん中にも、「 I 」の文字があるのです。ルシファーは、こう言うのです。

「私”は天に上ろう。神の星々のはるか上に”私の”王座を上げ...」（イザヤ14:13参照）

「私は、私は…」私、私、私、わたし…（笑）それが中心であり、タンクの中の燃料でもあります。だからこそ魅力的なのです。私たちの肉のすべてが謙虚さを傷つけてしまうからです。そして、盗むための磁石のように、霊的プライドを感じさせてくれるものに惹かれてしまうのです。そして、それが顕在化するということです。すべての例を挙げて説明するつもりはありません。私は罪を示されていますから...それでは、2つ目の問題に移りましょう。「霊的な惑わし」これは、霊的プライドと同居しています。律法主義は霊的な惑わしに根ざしており、それは嘘の父からの嘘とセットになっています。”私たちの神との関係は、私たちの功績に基づいている”というものです。いいですか、よく聞いてください。これは、敵があなたに聞かせたくない部分です。なぜなら、彼は多くのクリスチャンを騙し、主との関係が、功績に基づくものであると信じさせているからです。それは、惑わしの中の惑わしなのです。こんな感じです。私たちは、何かをしなれば神の好意や祝福を得ることができないと思い込み、惑わされてしまうことがあります。律法主義は「DO（行い）、Do、Do」と言います。恵みは、「Done(完了)、Done、Done」と言います。あなたがしなればならないことは何もありません。しかし、それが惑わしなのです。

そんなに簡単だと思いますか？ つまり、今、声を聞くことができるのです。あなたにはどんな風に聞こえるか分かりませんが。私が言えるのは、敵が常に試みていることです。私は40年近く主とともに歩んできましたが、いまだに日々の信仰の戦いです。敵は、「Do（行い）、do,do! do...doo-doo（ウンチ）...」

（笑）いや、ごめんなさい.....そんなつもりじゃなかったんです。それはそれとして、ウンチなんですけど...脱線しました。それが律法主義です。やらなかったことを理由にしたり、逆に、やったことを理由にしたりすることです。それが今の私の主との関係なのですか？ 私と主との関係は、何をするかしないかで、決まるということですか？ それは良くないですね。それはつまり、自分が良いことをしているときだけ、主との関係を保っているということだからです。それはあなたにとってどうですか？ 自分自身のことを話すのですが、もし、私と主との関係が、“良いことをする”ことが前提なら、その良いことを、定義してみましょう。「私は毎日3時間、祈りを捧げていました。」わあ、私にはふさわしくありません…

「テレビを持っていないので、神の御言葉を読む時間はたっぷりあります。」うわあ、そんなにやってるの？ イエスは、私より、あなたを愛しているに違いありません、私はそんなことしませんから。もし、「私やあなたが、イエスにもっと愛されるためにできることは、何もない」と言ったらどうでしょう。まあ、それは人によっては難しいかもしれませんが、ギアを噛ませたり、ハードドライブをクラッシュさせたり、どんな比喩を使ってもいいでしょうが、もしそう考えているなら、敵があなたを騙しているのです。なぜなら、イエス・キリストとの関係は、私たちが何をするかとは、何の関係もないからです。私たちとイエス・キリストの関係は、キリストがすでにすべてをなさったことと関係するのです。

イエスは言われました。「完了した」（会衆から）ありがとうございます。ちなみに、コンマではなくピリオドです。「完了した。」ピリオド。「完了したけれど、しかしながら...」しかしながら？「完了したけれど、もし...」もし？「もし、何？」「～する時、完了した。」その時？「あなたが～をやった時に、完了した。」そして、その空欄を埋め始めます...それは律法主義であり、あなたは騙されているのです。ここでリトマス試験があります...これが長年にわたって私の役に立っています。

律法主義とは、それは、私を主から遠ざけるものだと知っています。「先週はあまり良い行いが出来なかったの、主は私を良く思っておられないようです。私は、あまりみことばに、時間を割いていませんでした...祈りの時間があまり取れませんでした...デボーションも、あまり、しませんでした...ここにいる

〇〇兄弟は、彼はいつもデボーションをしています。私はしません…」そこには敵がいて、一日に千回、お膳立てして、あなたにそれを渡してきます。「ああ、これをやってないんだ。それもやってないんだね。」その結果、主との間に距離ができてしまうのは確実です。敵に捕まってしまう、小切手にサインしたようなものです。もう小切手は使いませんが、古い例えになります。白紙の小切手にサインして渡し、金額を記入させているのです。彼はあなたに好き勝手していて、これほど満足なことはありません。なぜなら、そうやって私たちを主から遠ざけているからです。リトマス試験は、「これやあれをするのは…」これは人生のすべての分野で全面的に言えることです。娯楽、人間関係、趣味「これをするのは、私を主に近づけるのか、それとも主から遠ざけるのか。」それがリトマス試験なのです。もし、私が人生を「Do (行い)、Do、Do」で生きていて、「Done (完了)、Done、Done」ではないとしたら、私はその本とおりを生きてきたので、次の章を書くことができると断言できます。そして次の章では、「私がしなかったから」という理由で主から遠ざかってしまうのです。それが惑わしです。そして、敵はそれが本当に得意なのです。そのことに関して、あなたよりもずっと上手です。今日、残りの時間を費やしたいのは、この3つ目、「霊的な未熟さ」です。霊的プライド、霊的惑わし、そして、霊的未熟さ。この問題は、3つの中でも最も難しい問題の一つです。それは、言い訳ではなく、単に無知であると説明できるからです。しかし、聖書の中で、特に書簡の中で、「無知であってはならない」と何度も書かれています。無知であることが問題でないなら、なぜ聖霊は著者に「無知であってはならない」という言葉を書かせたのでしょうか？ 慎重にやっているつもりですが、お聞きください。それは、聖書に「恐れてはならない」と書かれているようなものです。「恐れてはならない」という言葉を書いた相手が恐れていなければ、なぜ聖霊は著者に「恐れてはならない」という言葉を書かせたのでしょうか。今日の「聖書預言・アップデート」では、ヨハネの福音書の中で、イエスが、「心を騒がせるな」と言っておられます。なぜそんなことを仰ったのでしょうか？ それは、弟子たちが心を騒がせていたからです。さて、この真実を、今日の文脈に照らし合わせて考えてみましょう。「無知であってははいけません。」なぜなら、無知であることは、ちなみに、それを説明するかもしれませんが、それは言い訳にはなりません。この無知は、霊的に未熟であることの証です。言っておきますが、霊的に未熟なクリスチャンは律法主義者の格好の餌食になります。実際、私は確信しているのですが、律法主義者たちは犬の嗅覚を持っていますよね？ 彼らは1マイル先まで匂いを嗅ぎ分けることができます。彼らは御言葉を知らないのです。彼らは御言葉に無知なのです。「私は御言葉を知っています、私に聞いてください。教えましょう。」彼らはそうします。もちろん、彼らは文脈を無視して引用します。しかし、霊的に未熟なクリスチャンは、律法主義者に食い物にされ、道を踏み外される格好のカモです。本当に心が痛みます。実際、ヘブル人への手紙の著者は、彼らの未熟さについて、手紙の初期段階で彼らを叱ってまで、警告しています。5章を覚えていますか？ 11節から14節を読んでみましょう。

ヘブル5

11 私たちには話すことがたくさんありますが、説き明かすことは困難です。

その理由を知りたいですか？ もはや、あなたが理解しようともしていないからです。

12 あなたがたは、年数からすれば教師になっていなければならないにもかかわらず、神が告げたことばの初歩を、もう一度だれかに教えてもらう必要があります。

あなたがたは固い食物ではなく、乳が必要になっています。恥を知りなさい。主と共に歩んで何年になるのか、まだ歯が生えていないのですか？ まだミルクを飲んでいいるのですか？ ミディアムレアのステ

ーキを食べるべきです。...すみません。(笑) 彼はこのように言っています。ところで、彼は何も隠していません。それは良いことです。ここには必要な強さがあります。

13 乳を飲んでいる者はみな、義の教えに通じてはいません。幼子なのです。(霊的なことです) (これを聞いてください)

14 固い食物は、善と悪を見分ける感覚を経験によって訓練された大人のものです。

分かりましたか？ ああ、ちょっと待ってください、もし私が無知でなければ、私は成熟していて、神の御言葉を知っていて、私は神の御言葉を正しく見分けているので、律法主義者が私を食物にしてきても、恥を感じたり、油断したり、不意打ちを食らうことはありません。御言葉の中で成熟しているからこそ、肉を食べることができ、つまりステーキ、それも分厚いステーキをです。プライムリブ、1200グラム！ (笑) 私は善と悪を見分け、識別することができるようになります。さて、ここで律法主義者の登場です。「ハハハ、こっちへ来て、これをやってみましょう。」私にも試したいのですか？ ああ、私は善悪の区別をつけるように訓練してきました。それなのに、あなたの律法主義で、私に何かをしなければならぬと言いたいのですか？ かかってきなさい。これは面白い例えですが、もう古いかもしれませぬ。銀行の窓口で、偽札を見分ける訓練をしているのを知っていますか？ 本物に慣れさせて、感じて、触って、嗅いで、数えて、知り、よく知ることです。そうすれば、偽物を持ち込もうとしたときに、本物に慣れ親しんでいる彼らは、何かがおかしいと感じるのです。なぜなら、私は真実が何であるか知っているからです。私たちはこのように言いますね、「嗅覚テストを通過できない。」「それは何か違うんじゃないか？」聖霊があなたの心に置いたチェックや一時停止に決して逆らわないこと。それが識別力と呼ばれるものであり、霊的識別力と呼ばれるものです。それは、私たちが成熟し、自分自身を鍛え、神の御言葉を知るときに生まれるものです。御言葉を知らないために、どれだけ多くのクリスチャンが準備不足で油断しているかと思うと、ゾッとします。そのため、誰かが間違った教義を持ってきて、聖句を引用し始めるだけで、彼らは「おお、おお、わお！」となるのです。そして、彼らはそれを聖書から引用するのです。おいおい。悪魔はあなたよりも聖書をよく知っていますよ。悪魔は御言葉を知っていて、悪魔さえ、神を信じて震えているのです。サタンがイエスを誘惑したとき、サタンは聖句を引用しました。サタンはそれをねじまげて引用しました。それは、なんかちょっと...、正しいかのように聞こえるのです。しかし、自分を鍛え、神の御言葉を知っている者には、「待てよ、待て、待て。」「あなたは、聖書から引用したと言いましたね。そこまでだ、惜しかったですね。ハハハハ、サタンよ、さがれ。」いや、彼らにはそんなこと言いませんが...「あなたは文脈から逸れていますね。そういうことではありません。ほら、これはこういう意味です。惜しかったですね。」そして、ここからが本題です。彼らには常に目的があります。彼らの目的とは？ 使徒の働きでは、彼らの目的が何であるかが書かれています。弟子たちを自分のもとに引き寄せることです。なぜなら、「彼らだけ」が真理の権威者だからです。ですから、神の御言葉を解釈するためには、彼らのところに行かなければなりません。なぜなら、彼らはよく勉強しており、非常に学識があるからです。彼らはこんな風に話します。ははは、そうですね(笑) そして彼らはあなたを見下すように話し、あなたはワオッという感じです。これで締めくくりたいと思います。これは先週、私の息子に起こったばかりのことです。これを共有していいか尋ね、彼は私に許可してくれました。

彼はカリフォルニアの大学4年生なんです。ある日、彼はキャンパスで聖書を勉強している人たちに気づきました。聖書の勉強会をしていて、彼は「いいね！」と思い、彼らに近づき、「僕もあなたの聖書の勉強会に参加したい」と言いました。彼らは「ええ、どうぞ」と言ってくれました。基本的に、最初は順

番に聖書箇所の一部を読んで、次の人が読んで、ディスカッションをするんです。彼はこのことを母親と私に話して、私たちは「主をたたえよう」「主に感謝します」と。なぜなら、私たちは祈っているのです。大学、カリフォルニア、キリスト教...ハロー...？ 大学に行かせた子どものほとんどは、主と主のことに興味を失くさず帰ってくるんですよ、ええ。彼はこの聖書の勉強会を楽しんでいました。彼らは何回聖書の勉強をしたのか、わかりませんが。すると突然、彼から電話がかかってきて、こう言うんです。「パパ、聞きたいことがあるんだけど」私は「何だい？」と。彼はこう言います。「えっと、僕と一緒に聖書の勉強をしている人たちは、水のバプテスマを受けなければ救われないと信じていることがわかったんだ。」それは”バプテスマによる再生”と呼ばれるものです。これは私の次男レビです。この子が大好きです。彼はそれらを理解していたのです。私は「ほお」って感じです。もちろん私なので、「彼らにこれは伝えたのか？！これはどうなんだ？！」彼はただこう言います。「パパ、パパ、ええ、まさに僕は彼らにそう言ったよ。」私が「じゃあ、これは！？」彼は私を止めて、「ああ、それも言ったよ」と言いました。私が十字架の盗人の話を持ち出したのかと聞くと、彼は「それは僕のお気に入りだよ」と言います。「ところで、あの話には感謝している。なぜなら、その話は、ほら、彼らを捕まえたようなものだから。そして、彼らは大騒ぎして、『これは十字架につけられる前の話だ』と。え、そうなの？って。そして、僕はこう言ったんだ。『じゃあ、なぜ、イエスはバプテスマを受けたの？』」(笑) そうです！ そして、あらゆる場面で、息子は彼らへの答え方を分かっていました。そして、彼らは息子に勝つことはできませんでした。そこで私は「この人たちのことをもう少し教えて」と、いくつかの質問を始めました。私に来て、彼らを見つければ、彼らは重大な危険にさらされることになる。(中東訛り)(笑) いや、そんなことしませんが。一瞬だけ思いましたが、悔い改めました。息子にいくつか質問をしてみると、「彼らはとても小さな教会に所属しているんだ」と言い始めました。私は「これはカルトだ。出て行きなさい、カルトの印が全てあるのだから。」と言いました。それがカルトであるとわかるのは、自分だけが真実を持っていて、他の誰も持っていないとするときです。そして、この教会に来て、この先生のもとに座り、この教義を信じなければ、救われたことにすらならないのです。彼は、「パパ、会話の中で何度か聞かれたことがあったんだけど、『君のお父さんが牧師であることは知っているが、君はいつキリストに人生を捧げたのですか？いつ救われたのですか？』って。『8歳の時ですよ。』『8歳で救われるわけがない』と言われた。」それはつまり、私は彼らがどこに住んでいるのかを探し当て... (笑)「ああ、本当に？すみません、あなたはすべてを知っているんですね。私にはふさわしくありません...」(笑) それで彼らは、息子の救いの真偽を問うようになったのです。というのも、彼らの律法主義的教義によれば、8歳では、救われるために”すべきこと”ができないようなのです。そういう人を連れてきたいんですが、まあ、それはしません。若かった頃の私は、若い頃は…「あなたはまだ同じような状態ですが。」私は過激でした。「あなたは今でも過激ですよ。」分かっています… (笑) しかし、時には聖なる力が必要なのです。妻が入って来て、「電話を貸して。あなたはお父さんの血圧を上げているわ、そんなことしないで。」と言わなければなりません。しかし、なぜそれが私を立腹させたのかというと、もちろんこれは私の息子のことだからですが…ところで、彼は私がやるよりもずっといい仕事をしてくれました。彼は自分自身で対処しました、つまり、あらゆる場面で。イエスがサタンに誘惑されたとき、サタンが聖句を曲げて引用したときのように。イエスはその聖句を正しく引用して言い返されました。(ルカ4章参照)

「(聖書に)書かれている。書かれている。」それでこそ我が子です。とても誇らしいです。しかし、なぜこれが深刻なのか、その理由はここにあります。そして、どうか私の心の思いを聞いてください。こん

なことを言うと、誰か知っている人がいるかもしれません。誰かが思い浮かぶでしょう。このためにどれだけの若いクリスチャンが信仰を脱線させられたことでしょうか。私が若い信者だった頃、主に燃えていた私は聖書を手放すことができず、半年ほどで初めて最後まで読んでしまいました。ある日、公園で聖書を読んでいると、男の人が歩いてきて、彼は私にこう言いました、「あなたはクリスチャンですか？」と。「ええ！」私は信者になったばかりで、主にあっては若く、幼子のようなもので、ただ神の御言葉を糧にして成長していました。そして、彼は私に次のように言います、「聖霊のバプテスマを受けましたか？」と。「えーと...ええ...」「異言を話すというその証拠がありますか？」私はまだその部分には至っていませんでした。「異言？何ですって？」彼は「そうです、証拠です」と言って、私を「使徒の働き」に案内してくれました。私は準備不足でした。その後は、そんなことは二度とありませんでしたが。家に帰ると、「待てよ、どこだ、どこだ」と思いました。彼は、聖霊のバプテスマを受けた唯一の証拠は、異言で話すことだと言いました。それは間違っています。そして、彼は引用し...今、私は自分自身の救いを疑い始めている、自分自身の救いの真偽を。それは、明らかに、敵があなたの心に自分の救いについての疑念を抱かせようとしているからだと思いませんか？ それは敵であり、主ではありません。それで、家に帰ってから考え始めてみたのですが、彼は「ただ喋ろうとし始めればいい、そうすれば喋れるようになる」と言っていました。それで、私は賢くなって、「使徒の働き」を読み返してみることにしたんです。結局、使徒の働きの中で、ギリシャ語で「エピ(上に)」と呼ばれる、聖霊が上から注がれた場面が記録されているのは、5回です。その中で異言で証明されたのは2回か3回だけだったと思います。しかし、聖霊が誰かの上に注がれるたびに、その証拠に大胆さが出てきたのです。実はアップデートでこの話をしていたところです。使徒の働き4章のペテロとヨハネです。人々はこの二人に圧倒されました。そして、彼らはまるで...彼らはそのような力と権威を持って教えているのです。そして、この人たちに何も特別なことはありません。普通の男たちです。つまり、この一人の男は、確か漁師だったと思います。そして、彼は今、その力と権威をもって話しているので、彼らはただ啞然とし、困惑していました。そして、読んでみると、「ああ、この人たちはイエスと一緒にいたんだ、そうだったんだ」と。(使徒の働き4:13参照)それが聖霊の力です。聖霊の力とは、ギリシャ語の「デュナミス」という言葉で、英語の「ダイナマイト」の語源です。ダイナマイト！ 古いですね。しかし、それは力、デュナミスなのです。聖霊の力です。それは、聖霊に満たされている、言うならば、聖霊のバプテスマを受けている証拠です。それが証拠に...、ええ、私は祈りの原語を持っています。私は自分の知らない言語で祈り、それは啓発的であり、私は主に向かって異言で祈るのです。しかし、その証拠は力なのです。なぜなら、聖霊があなたの上に臨むとき、あなたの人生は川のようになり、水の流れとなるからです。水の力を知っていますか？ 本土では、電気をどうやって得ているか知っていますか？ それは水の力からです。だからダムがあるのです。水には、とても大きな力があります。洪水が起きると、家全体が水に流される映像が流れますよね。それだけ水の力が強く、爪楊枝のようになっています。それほどまでに水の力は強いのです。これこそが聖霊の力であり、あなたの人生、あなたは満たされ、それは生きた水であり、生きた水の流れであり、とても力強いのです。聖なる人生を送るためには、聖霊の力が必要です。私たちの中にいる聖霊が私たちに力を与えてくださるのです。ちなみに、聖なる御言葉を理解させてくれるのも聖霊です。最後にひとつ。もう「最後に」って言いましたっけ？ 言った？ わお...、皆さん...ジーザス・ムーブメント（イエス運動）の時代に...この内容の触れ方に気をつけたいですね。しかし、リバイバルを研究している人がいました。確か、エドウィン・オレだったと思いますが、その人の名前は忘れてしまいましたが、彼はもちろん、今は主とともに

にいます。そして、彼はいつもリバイバルが起きて、人々が救われているところに行きたがりました。そして、彼はこれらのリバイバルを研究していました。彼はそれを人生の野望としており、実際にそのことについて本を書いています。ああ、人の名前を思い出せない時ってありますよね。今日の午後3時頃には思い出します。ということは、あと3時間くらい待ってもらいましょう。そこで、彼がこんなコメントをしたのですが、それがいつも私の心に残っています。

「このリバイバルは、聖霊が聖なる御言葉を通して、神の聖なる人々に語りかけておられるのだ」と言いました。「それは神の御霊が神の御言葉を通して、神の民に与えられるものです。それがここで起きていることです。これは聖霊の動きなのです。」神の御霊が神の御言葉を通して、神の民に伝えます。それが、これです。ところで、いいですか、これが最後の最後になります。このことについて考えてみてください。それは、私たちが教会の体として共に集うたびに起こることです。そして、そのことにとっても感謝しています。なぜなら、ほら、聖霊が動かれるときがあるからです。そして、私の言葉は無効になりますが…イエスよ、感謝します…御言葉は決して無効になることはありません。そして、私が話した御言葉を、神があなたの心の中にある必要性に合わせて微調整してくださるのです。そのため、誰かが私に電話をかけてきて、先週自分に起こったことを、誰かが私に話したと思うことがあるのです。「どうして知ってるのですか？」みたいな感じですよ。私は何も知らなかったのですが、聖霊は知っておられました。それで時々、このような脱線をしてしまうのです。余談ですが、誰かにとってはピッタリの言葉であることを私は知っています。その上で、聖霊に逆らわないことを学んでいます。しかし主は、神の御言葉を通して、神の御霊が、神の民であるあなた方を導くのです。そして、時には…、これで終わりです。時々、とても感謝することがあります。神は、私が説いた説教とは違う説教を聞かせてくださるのです。イエスよ、感謝します。それは神の御言葉の力と聖霊の力です。お立ちください。聖霊、聖霊が出てきてくださいます… (笑) あー、いや、聖霊はすでにここにいます。賛美チームに出て来てもらい、一緒に聖霊を連れてきてもらいます。ああ、説教が終わっても終わらないから、こうなってしまうのですね。

ああ、主よ、ユーモアに感謝します。笑いには感謝しています、とても癒されますし、薬にもなります。しかし、主よ、この律法主義の問題は大きな問題であり、深刻な問題です。そして、ヘブル人への手紙の著者が、律法と恵み、生と死との間の、この厳しい対比を描くようにしてくださったことに、心から感謝します。主よ、私も含めて、どんな形であれ、律法主義に惹かれている人が、それを認識し、それを見分け、そこから出来るだけ早く遠くに逃げられるように、ただ祈ります。主よ、あなたの御言葉に感謝します。私たちは、あなたをとっても愛しています。イエスの御名において、アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7